

太陽光の発電パネルを設置した屋根の下でシイタケを栽培している日本環境テクノの農場。佐賀市巨勢町



ソーラーシェアリング

日本環境テクノが参入

日本環境テクノ(佐賀市、小室光春社長)は、農地には55坪のパネルを50枚設置。パネルが約300万円、工事費が約50万円。売電による年間収入は約40万円を見込み、約8年で元が取れる計算になる。

売電収入と農業両立

を狙った仕組みで、シイタケ栽培や米作りなど農業形態に合わせた設計ができる。佐賀市巨勢町にソーラーシェアリングのモデルケースとして農場を開設している。面積は75平方メートルで、22。

た太陽光発電事業で、県内では数件しか導入されていない。パネルの設置で、日光を遮ることになるが、光合成に必要な光だけを取り入れる設計が可能。シイタケなど日光を避ける栽培方法の作物には、パネルが日よけになる。

(諸岡佳紀)